

西光寺だより

第十八号 平成二十四年二月一日発行

暦の上では立春となりますが、まだまだ寒い日が続いております。暖房のある現代でも気温の低い日の朝などは、かじかむ指先に暖かい陽のぬくもりをいただきたくなりますね。二月は、もつとも春の訪れを待ち遠しく感じるときかもしれません。それでも、この寒い時期に咲き誇る花があることを皆様もご存じのことと思います。

梅、椿、福寿草に木瓜ぼけの花、春の七草のひとつであるナズナなどもありますね。

梅の花は色と香りを、椿は鮮やかな美しさを、福寿草はどの花よりも早く春一番に咲くおめでたい花だといわれ、黄色い姿で殺風景な冬の景色に色を添えてくれます。

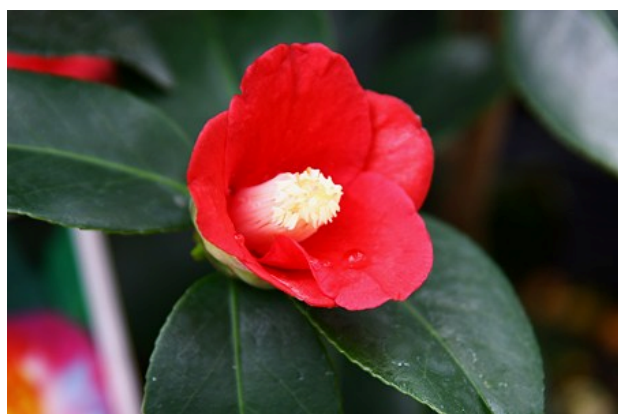
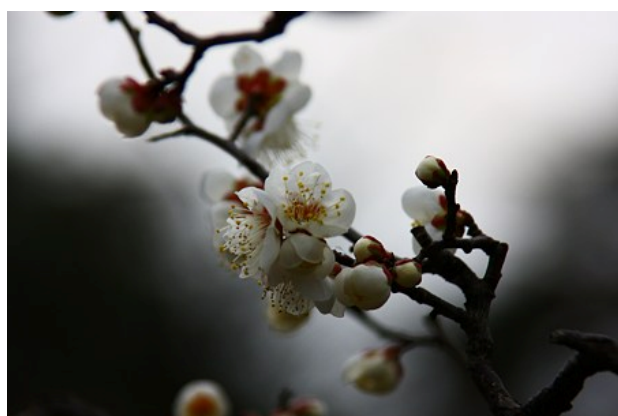
暖かな春ではなく寒い季節に咲くこの花たちは、それ故にこそ私たちの胸を打つのかもかもしれません。

皆様はどんな花がお好きですか？

自分を花に例えるとすれば、どのような花でしょうか？

花は誰かに見られるためではなく、咲くべき季節にきちんと本来の姿で花開いています。それぞれが精一杯、それぞれの花を咲かせているのですね。

わたくしたちは、それぞれの花を咲かせているでしょうか。他の誰でもない自分自身の花を精一杯咲かせてまいりましょう。ひとりひとりが花を咲かせ、毎日を彩るものとなれば、それは本当に美しい景色となることでしょう。



◆二月・三月の行事◆

・三月三十一日（土）

春季永代経法要・追弔会

二時・七時 西光寺本堂

・御講師 巖水 法乗 師

（浄覺寺住職）

● 今月のことば ●

「青色青光

黄色黄光

赤色赤光

白色白光

（『仏説阿弥陀経』）

阿弥陀経にありますこの一節は、極楽浄土に咲く蓮の花の様子を語ったものです。

「極楽浄土の池の中には車輪のように大きな蓮の花があつて、青い花は青い光を、黄色い花は黄色い光を、赤い花は赤い光を、白い花は白い光を放ち、いずれも美しく、その香りは気高く清らかである」と説かれています。

私たちは、他の人と比べて勝れたものを持つことに捉われて生きています。しかし、実は一人ひとり、すでに、それぞれの光を持ち、光り輝いているのですね。

色は個性を表しています。それぞれ違った個性を持った私たちが、いただいた尊い「いのち」を輝かせるためにあるのです。青色が黄光になることはありません。あなたは、あなた自身で輝いているのです。そして、それぞれが個性を認め合つて生きていくことが出来れば、この世から争いごとはなくなることでしよう。

それぞれの「いのち」が個性を持つて輝き、互いに讃えあう、この言葉はそんなことを語りかけてくれています。

◎ あとがき ◎

この度、本願寺では昨年四月九日から始まった親鸞聖人七百五十回大遠忌法要の総まとめとなる「御正當」が一月九日からつとめられ、十六日の日中法要で、満堂の参拝者の熱い感動とともにご満座を迎えました。

また、十六日の日中法要に引き続き「御消息発布式」が行われ、ご門主が「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要御満座を機縁として『新たな始まり』を期する消息」を親読されました。

西光寺でも茨木東組団体参拝で、ご門徒の皆様と本願寺での団体参拝をさせていただき、五十年に一度のご勝縁をこうして皆様とお迎えできたこと感謝しております。

本願寺によりますと団体参拝を中心とした法要をはじめ幼児、青年、少年を対象とした法要行事が六十五日間にわたり百十五座厳修されました。これらの大遠忌法要への参拝のほか、日野誕生院、角坊、大谷本廟などへの参拝を含めた総参拝者数は百四十三万人を超えたそうです。

全国各地より多くの参拝者が、親鸞聖人のご遺徳を偲び、お念仏のみ教えに生きる思いをあらたにした法要でした。

親鸞聖人が開かれた浄土真宗、その浄土真宗のお寺である西光寺、その西光寺のご門徒である皆様との出会いに改めて深く感謝するとともに、親鸞聖人から繋がってきた廣大無辺のいのちに感謝したいと思えます。ありがとうございました。

合掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二一四七九四

FAX 〇七二一六二一九二九二

<http://www.osaka-saikouji.net/>